

デジタルフォト・アルバム「おもいでばこ」で
介護施設のコミュニケーションが活性化。
写真をきっかけに会話が弾む楽しいひと時
を利用者に提供。



ブライトの家様

ブライトケアの小規模多機能型居宅介護施設「ブライトの家」では、介護が必要となった認知症の方々に、通い・宿泊・訪問という3つのケアをサービスしています。リビングに設置した大画面のテレビに「おもいでばこ」をつなぎ、スライドショーを映すと、自然と会話が始まります。みんなで思い出を語りあい、楽しんでもらうことが、ブライトの家のケアにとって非常に大切なことなのです。

写真：有限会社ブライトケア 「ブライトの家」 所長 木村謙一氏
取材協力：株式会社ビーブリード



毎日を楽しく過ごせる小規模多機能型居宅介護施設

ブライトの家は、2000年に創設された地域密着型「小規模多機能型居宅介護」を提供する施設です。介護が必要となった認知症の方を中心に、通い・宿泊・訪問のサービスを提供しています。

ブライトの家は、記憶を留めることが困難になっている多数の認知症の方に利用されています。認知症の方々に、日々の生活を健やかに過ごすためには、できる限り記憶を取り戻すということが大切になります。

多数の写真をサービスの質向上に活用

ブライトの家では、従来から写真を活用したケアを実践しており、イベントや日々の生活をスタッフがデジタルカメラやスマートフォンを使って写真を撮っています。こうして撮影された写真は、年間でおよそ2,000枚にもなります。

「言葉や文章だけでは、楽しかった思い出を語るには不十分ですが、これに写真が加わると、大きな効力を発揮します」(木村氏)

パソコンの中に埋もれてしまう写真

これまで写真の整理や管理は、木村氏がパソコンで行っていましたが、業務に忙殺されているときには、長期間後回しにしてしまうケースが増えています。

木村氏の懸念は、パソコン内に埋もれてしまう写真の多さです。アルバム化や写真立てを設置するには限りがあり、すべての写真を印刷するのも困難です。せっかく年間2,000枚の写真を撮っても、日の目を見るのは100枚程度。残りの大量の写真は、パソコンの中に入りっぱなしで有効活用できていないという状況でした。

介護サービスの仲間が「おもいでばこ」を紹介

あるとき、交流のある小規模多機能型居宅介護施設「ユアハウス弥生」を運営している飯塚裕久所長から、「手頃な価格で、非常に簡単に使え、多数の写真を保存することができる」と「おもいでばこ」を教えてくださいました。

ユアハウス弥生では、すでに「おもいでばこ」を利

用者のケアに活用しており、同様の課題を抱えていた「ブライトの家」でも、有効に活用できると考え、導入を決めました。

年配のスタッフでも簡単に使える

「おもいでばこ」は、利用者が集まり、大型テレビある1階のリビングに設置し、既存のネットワークに接続。「おもいでばこ」は無線LANにも対応していますが、今回はLANケーブルで接続し、大型テレビとはHDMIで接続しています。

写真の取り込み・整理にも時間を取られることはほとんどありません。「おもいでばこ」にデジタルカメラで撮影したSDカードを差しこんでボタンを押すだけです。取り込み済の写真を自動スキップしながら写真の取り込みを行い、その上、撮影した日付で自動的に分類してくれます。

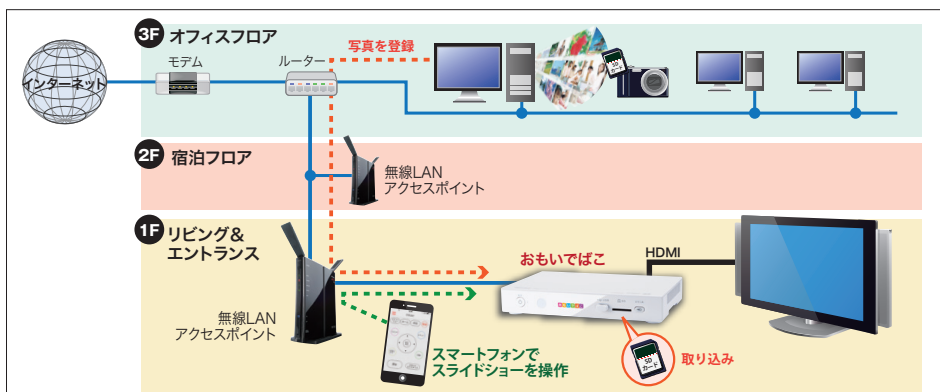
ブライトの家には年配のスタッフも多く在籍していますが、「おもいでばこ」は誰でも簡単に操作してすぐに写真が見られる箱、として喜ばれています。

「その時の思い出」に一喜一憂

リビングでスライドショーを始めると、自然と会話が始まります。誰かが写真に写ると、「〇〇さん、写っているよ!」「これどこだっけ」「ここは〇〇公園だよ」というように、記憶を呼び覚ますコミュニケーションが広がっていきます。

「写真を見返すことが認知症の改善に役立つかどうかは解りませんし、特別に大きな期待を寄せているわけではありません。むしろ、写真を通じて楽しかったことを思い出して、また喜ぶという、その時々感情自体が非常に重要だと考えています」

「『おもいでばこ』を導入したことで、写真を見る機会が大幅に増えました。パソコンの中で活用できずに眠っていたすべての写真を「おもいでばこ」に取り込むことで、これまで埋もれていた写真を気軽に見られるようになったことが、最大の効果ですね」(木村氏) と評価をいただきました。



導入製品



デジタルフォト・アルバム
「おもいでばこ」 PD-100S/W
omoidebako.jp/

